

# 今回はついに、世間を震撼させている「アームジャグラーEXの電波ゴト」について全貌を暴いていく。

前回、「バック」について斬らしてもらい、まだまだ話さなければならぬ事が沢山あるので、続きは次回、とさせて頂いたのだが、ご了承いただきたい。「斬、耕平が斬る！」

## 電波ゴト事件発生！

「アームジャグラーEXの電波ゴト」があるのではないかと、以下アーム

この噂が弊社に入ったのは年も押し迫った11月の事だった。とかくこの業界では、見た事の無いような現象を見ると「幽霊だ！」と騒ぐがごとく、「電波だ！」と騒ぎ立てる。

当初は私ですら、「電波ではないかと問い合わせが有りました」との報告に、「また電波か・・・」と思ったものだ。

しかし、12月に同じような報告が、全く別々の地区から

5件もあれば、そんなことを言っていられない。

## 警察署からの鑑定依頼

さて情報集めに全力を尽くしてはいたおり、ある警察署から連絡が入った。

「ゴト師を捕まえたいのですが機械を持っていないので、それを鑑定してもらえませんか」との相談だ。その被害に有った機種が、「アーム」だった。

体が震える思いをした。持っていた機械が電波発信器であろう事は、容易に想像がつかれたからだ。弊社まで届けて

もらい、分解して検証した。

その結果、手口は勿論、周波数等の機械的な部分も解明する事が出来たのだ。

内部については弊社社員であれば、既にHP上でご覧いただいているはずだ。

申し訳ないが、本誌で内部を明かす事が出来ない事をご了承承願したい。

そうは言っても、全てを隠すと「全貌を暴く」とお叱りをおきながら何だ！とお叱りを受けてしまうだろう。

ではその仕組みについて明かそう。

まずは分かりやすく、体感器とは、電波発信器とはについて解説しよう。

## 体感器

言葉が旧態然としたままなので誤解を招くが、狙った機種の内乱数と同スピードで乱数移行をする装置。故に体で感じている訳ではない。弊社では「内部乱数同調装置」と呼んでいる。

## 電波発信器

内部のどの部分かに誤作動をさせるために、電波を用い

る為の道具。筐体は電子部品で作られている為、電気が流れると誤作動を起こしてしまう。簡単に言えばショートゴト等も流れない電流を流す為の道具だ。ただし、後述するがフォトカプラー等は直流では動作しない。交流が必要なので、電波を利用する。

最低、ここまでは理解していないと後がついて来れなくなるので、良く理解しておく様に。

## 写真解説

写真の「レバー接続部分」と書いているところは、磁石（ネオジム）で出来ている。その部分をレバーの付け根、つまり金属で出来ている、棒の部分に押し当てて。さらにネオジムから二股に分かれてピアノ線が出ているのは、筐体にごくランドを取る為。ここから電波を送る。フォトカプラーは直流では作用しないので、交流である電波が必須となる。その電波を棒から受信したフォトカプラーが誤作動をして、レバーを叩いていないにも関わらず、作動をしてしまう。

## 乱数移行スピードについて

アームの周期は、0・05秒だ。この一周の間に乱数は65536個存在している。恐ろしいスピードで移行している事が分かりだろう。

大当たり判定は、ルーレット方式をとっている為、一度大当たりの場所が分かると連続して大当たりを引き当てることが出来る。その為には、筐体の乱数移行スピードと、体感器の移行スピードが限りなく同調していなければならぬ。およそ、1億分の一秒までも同調しているであろう。

\*注：番地が一つずつ移行して行くので乱数ではないが、複雑になるのでそのまま乱数と表現する。

## 大当たりについて

大当たり番地は非常に小さいものである。あまり詳しくない人の為に噛み砕いて説明する。

例えば1200個の乱数の内、1個が大当たりならば1200分の1の確率となり、2個ならば600分の1、3個なら400分の1となる。そして大当たりや小役等の

乱数を決定するにあたり、プログラムの都合上、スタートして（電源が入って）すぐ近くに番地が存在してしまう。

具体的には、電源ON↓乱数0から1へと移行が始まる↓外れ（少ない）↓小役番地↓大当たり番地↓その他小役番地↓外れ（多い）↓乱数0に戻る。これを猛スピードで繰り返して行く。

つまり大当たりは外れより圧倒的に乱数が少ないとは言え、小役と共に回って存在している事で、精巧な体感器により追従して行く事が出来るのだ。

## ゴト師の行動について

①台に座る。体感器（運動した電波発信器）の電源を入れる。  
②磁石を棒に押し当て、同時にピアノ線を筐体に差し込みグラウンドを取る。  
③メダルを投入し、発射ボタンを押し電波によってスタートさせる。その為、左手をレバーに覆う様にして磁石やピアノ線を隠し、その手でレバーを叩いている様に見える。  
④小役が揃うまで、コマ送り続ける。



なかの こうへい  
1957年高知県出身。大手OA機器販売メーカー・大手建設会社などの勤務経験の後、パチンコ業界に入る。その後、三十年以上にわたるパチンコ業界での研究しつづし、各遊技業協同組合でも不正防止講演会に講師として参加するなど、不正防止の知識を広げるべく活動を行っている。

## 今後はどうなる？

さてこの電波ゴトはアーム

次号では先送りした「バック」について書くのか、「電波ゴト」について新展開が待っているのか、私にも分からない。どちらにしてもおおいに斬らして、頂こう。

だけの特殊な例だったのか。我々の研究で分かった事は、いつの間にか規定が変わり、フォトカプラーの仕様が変わった事で「電波でやられる」と何が分かった。ただし、電波を伝える役目をしている、棒の長さ等、複雑な部分があり、どの機種がやられるのかまでは分かっている。さらに単純に「Aタイプだからやられた」と断言できない。理論上は現存する回胴機種は殆どやられる可能性を秘めている。今回はここまでとさせて頂こう。

アームジャグラーEXの電波ゴトに使われた機器

